

【静岡県小山町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち1人1人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる、教育 ICT 環境を実現する。

2. GIGA 第1期(～令和5年度まで)の総括

本町では、令和元年度から、先行して学習ネットワークを整備し、1人1台端末を導入していた。学習用ツールとしてベネッセの「ミライシード」を導入し、意見共有やプレゼン資料作成などを授業の中で活用してきた。また、家庭での持ち帰りを行う学校も増え、AIドリルなどを活用した家庭学習やオンライン授業を行える環境が整ってきた。

しかし、ネットワークについては、主に児童生徒が授業中に端末を使用した際に、センター集約型による速度遅延が生じており、一部の児童生徒の学習が止まってしまうことが日常的に起こっていた。また、小規模校が多く、「協働的な学び」に十分に結びつかず、令和5年度全国学力・学習状況調査では、「話し合う活動を通じて考えを深めたり、広げたりできる」の回答割合が、小9.3%、中5.2%と全国平均より低いという結果だった。

上記の課題について、「令和6年度 小中学校デジタル学習環境構築事業」で解決を図る。ネットワークの速度遅延については、ローカルブレイクアウト型にすることで改善を図り、ネットワークアセスメントを実施することで、必要なネットワーク速度の確保に取り組む。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

「教育 DX に係る当面の KPI」で示されている内容について、以下を目指す。

項目	KPI	目標値 (目標年度)
個別最適・ 協働的な学びの 充実	毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	100%(R6)
	情報通信技術支援員 (ICT 支援員) の配置	現状維持 ※4校/人 (R5)
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	小:80%(R6) 中 100%(R6)
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%(R10)

ICT 研修を受講する教員の率を上げるために、オンラインを活用した研修会の充実を図り、アーカイブ配信の活用を促すことで、場所や時間にとられない研修会を目指す。

情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置率は既に達成しているが、ICT 支援員との連携強化や、活用事例の共有をしていく。

1 人 1 台端末を週 3 回以上活用する学校の率は、ネットワークの遅延による問題を解消し、授業での円滑な使用環境を構築することで、活用率の促進を図る。

児童・生徒用のデジタル教科書について、英語は、全小中学校に導入されており、算数は小学校 2/5 校、数学は中学校 1/3 校に導入されている。（R5～ 県予算）導入校では、毎時間の授業での活用を目指す。指導者用デジタル教科書は、小学校では、全教科に指導者用デジタル教科書を整備した。今後、大型提示装置の整備・効果的活用や、音声による教材提示の活用をすることで、実践的な活用を目指す。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

「教育 DX に係る当面の KPI」で示されている内容について、以下を目指す。

項目	KPI	目標値 (目標年度)
個別最適・ 協働的な学びの 充実	児童生徒が自分で調べる場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	100% (R6)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	100% (R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	100% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	100% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	100% (R8)

令和 7 年度から、利用者ごとのアプリ利活用ログをダッシュボードで可視化していく。利活用状況データを定期的に確認し、教育委員会、ICT 支援員、デジタル環境保守委託会社と連携することで、ICT 支援や教員向け研修に活かす。

(3) 学びの保障

「教育 DX に係る当面の KPI」で示されている内容について、以下を目指す。

項目	KPI	目標値 (目標年度)
学びの保証	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R8)
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100% (R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R8)
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100% (R8)

日常的なオンライン授業ができる環境を整えることで、不登校及び保健室等に登校する児童生徒へのオンライン授業を充実させていく。また、ICT を活用した不登校児童生徒の学びの場の確保についても検討していく。特別な支援を要する子への支援として、音声教科書の提示や学習用アプリの効果的な活用を実施する。

次回の「小山町教育振興基本計画」には、安全・安心な教育環境の整備として、基本的な方向性を定め、ICT を活用した教育の推進を新たに盛り込んでいく。